

新型コロナウイルス感染症 院内感染の経過報告と当院の現状について

2020年12月下旬に当院内で新型コロナウイルス感染者の集団発生（クラスター）が発生いたしました。当院職員、入院患者さんの感染が広がり、皆さまに大変なご迷惑とご心配をおかけしておりますことを心よりお詫び申し上げます。

2021年1月14日現在、院内で発生したクラスター関連感染者は、職員19名、入院患者さん23名、合計42名となりました。感染が明らかになった患者さんのなかには、当院で手術を受けられた方や、集中治療室（ICU）に入室されていた方もおられ、手術室のスタッフからも感染者が発生したため、多くのスタッフが濃厚接触者として自宅待機となりました。このため一時ICUを閉鎖し、手術を制限することを余儀なくされました。救命救急センターへの救急車の受け入れも停止せざるを得ない状況となり、近隣の医療機関の皆様と地域住民の皆様には大変なご迷惑とご心配をおかけすることになりました。かさねてお詫び申し上げます。

当院では、12月28日に1つの病棟全体を新型コロナウイルス感染患者さん専用とし、合計22床を感染患者さんの受け入れ専用として整備しました。しかしながら、次々と感染患者さんが搬入され、瞬く間に22床は満床となり、1月3日から満床状態が継続している状態です。入院された感染患者さんは、重症患者さんも多く、総合内科医師、呼吸器内科医師をはじめ、内科系医師を総動員して、また、外科系医師にも協力をお願いしながら治療に当たらせていただいておりますが、病床数としても、また、マンパワーとしてもこれ以上の感染患者さんを受け入れることができない限界の状態です。可能な限り救急車の受け入れは継続させていただいておりますが、新型コロナウイルス感染が疑われる患者さんが搬入されますと、救急車の受け入れと各診療科の診療を継続することが不可能となる可能性がありますので、近隣の医療機関の皆さまと救急隊の皆様にもこの状況をご理解いただきまして、ご協力をお願いしております。

現在、外来、入院の一部を制限させていただきながら、クラスターの終息に向けて全職員が一丸となって業務に励んでおります。院内で発生する新たな感染者は日ごとに少なくなっておりますが、終息までにはもうしばらく時間がかかる見込みです。感染した職員も、徐々に現場に復帰してきておりますので、一刻も早く診療体制を立て直すべく全力を尽くしてまいります。また、院内感染を防止するための対策をさらに強化していく予定です。当院の現状につきまして、ご理解を賜れば幸いに存じます。

皆さまにご心配とご迷惑をおかけしておりますことを心よりお詫び申し上げます。

2021年1月14日
病院長 奥村 明彦